

へ 開門常時、早諫

首相が上告断念
「高裁の判断重い」

菅直人首相は十五日、国営諫早湾干拓事業の五年間の排水門常時開放を命じた福岡高裁判決について上告を断念することを表明した。判決は確定し、農林水産省は二〇一二年度にも開門調査を実施することになる。鹿野道彦農相が十六日に長崎県を訪れ、関係者に伝達する。

菅首相は「ギロチンといわれた一九九七年の工事以来、何度も現地に足を運んでおり、最終的に判断した。開門により、海をきれいにしていこうという高裁の判断は大変重い」と述べた。「動きだしたら止まらない公共事業の典型」などと環境団体などから強い批判を浴びた事業の転換点となる。



国営諫早湾干拓事業の福岡高裁判決について、上告断念を発表する菅首相―15日午前、首相官邸で

鹿野氏は長崎訪問で、開門調査では干拓地の農業に影響を与えないよう、万全を期す考えを説明する。ただ長崎県は強硬に開門に反対しており、反発は必至とみられる。農水省は、高裁判決の開門方式では干拓地の農業への影響が大きいとして上告した上で開門調査を行う方針だった。